

〔和漢三才圖會五十三〕蟬音 蜩 齋女 和名世美○中

按凡蟬方首露目、噤口而似無口者、故不能飲食、唯可吸露、當足下腹有裂、番而振羽鳴也、試抑其處、則不鳴、綫下垂著腹、今稱蟬者、淺褐色羽薄如紗、肖蜻蛉之羽、五月始鳴、聲如言世美世美、甚喧而有序、破急似讀經、人家亦有喬木、則來鳴、輒飛去。

〔書言字考節用集五〕氣形ウツギ 枯蟬蟬也 遷蟬日本 空蟬萬葉 蟬蛻 蛻食三十日而蛻 枯蟬 金牛兒  
〔藻鹽草十二〕う。つ。蟬り、まかれば、只せみの總名也と云々 ねをなくむしのなれるすがたかみの云てよ

〔和漢三才圖會五十三〕蟬蛻 蟬殼 枯蟬 金牛兒 蟬退 和名世美乃毛奴介○中  
按腹ニシトチ 蟬キウ 蟬等、冬蟄夏出、背裂而為蟬、出去殼也、紀州越州之產為佳、形大而馬蟬之殼也、藥肆所售者、多常蟬蛻也。

〔重修本草綱目啓蒙二十八〕蚱蟬○中  
蟬蛻ハ○中 セミノヌケガラ○中 蟬蛻ノ土中ニテ、蛹トナルヲ腹蟬ト云、俗名、ニシヤドチニシムケ阿州ウバムシ 藝州○中 ノ形蠶ヒイル 蛹ニ異ナラズ、指ニテ摘ムトキハ、腰以上ヲ左右ニ

搖カス、故ニ西ハドチト云フ轉ジテ、ニシヤドチト云フ、夏月土中ニテ復蟬ヨリ蟬形トナリ、土ヲ出テ樹木ノ根上一二尺許升ル、此時頭足皆備レリ、未ダ羽アラズ、數日ノ後、皮ヲ蛻シテ三五尺モ上ヘ升ル○中 ソノ後日ヲ經テ、再ビ皮ヲ蛻シ、全形トナリ飛ビ去ル、

〔嬉遊笑覽十二〕蟬蛻ハ蟬蛻ノ土中にありて、蛹ト成れるを腹蟬といふ、指にてつまめば、腰より上のかたを左右にふり動かすを興じて、小兒これをとりて、西はどちといふなり○中、これが土中にて蟬ト化リ、土より出て、樹木に上り、蛻タル壳を蟬蛻といふ、空蟬是なり、

〔萬葉集雜一歌〕麻績王聞之感傷和歌